

## 第2章 流域及び河川の自然状況

### 2-1 流域の自然環境

#### 1) 自然環境の概要

鈴鹿川流域は地勢が急峻で、上流域は山間をぬって溪谷を刻み、亀山市の市街地あたりから段丘状の平地が開ける。中流域から下流域を北側・南側に分けてみると、北側は鈴鹿山麓から発する扇状の台地が波状に重なっている。これに対し南側は海岸に至るまで沖積平野が開け、そのほとんどが水田に利用されている。

流域の植生帯は暖帯林から温帯林に属すが、その大半を人工林が占め、自然植生が見られるのは標高の高い地域や神社林等に限定されている。

土地利用は、上流域の山地は森林が大半を占め、中流域の扇状の台地には茶畑を中心とした耕作地が広がり、下流域の平野部は水田や市街地として利用されている。また四日市市の臨海部をはじめ、鈴鹿市・亀山市の内陸部でも多くの工場が立地している。

このような、流域の地形や地質、植生、土地利用等の特徴を踏まえると、鈴鹿川流域は、急峻な地形で豊かな溪谷美を見せる上流域、扇状の台地が開け、茶畑としての利用が盛んな中流域、平野が広がり、水田や市街地が広がる下流域に大きく区分される。

#### 〔上流域：源流部～加太川合流点付近〕

標高 300m 以上の山地部で、急峻な鈴鹿山脈に溪谷を刻みながら流下し、支川の上流域に見られる石水溪、小岐須溪谷、宮妻峡といった豊かな溪谷美や、鈴鹿山の鏡岩、筆捨山といった山岳景観に代表される特徴的な景観を形成している。植生はスギ・ヒノキの人工林が大半を占めているが、標高の高い山岳部の一部にはブナの自然林が広がり、野登山のブナ林は三重県の天然記念物にも指定されている。

#### 〔中流域：加太川合流点～井尻頭首工付近〕

標高 100～300m の扇状の台地や平野を主とする。傾斜の緩い扇状の台地には茶畑が、平野部には水田が広がり、ところどころアカマツの植林も見られる。また、鈴鹿市や亀山市の市街地も広がっている。

#### 〔下流域：井尻頭首工付近～河口〕

標高 100m 以下の沖積平野となっており、水田や市街地が広がっている。

河口部にはシギ・チドリ類の休息地となり、環境省の「日本の重要湿地 100」にも選定されている干潟が存在する。



図 2 - 1 流域区分図

## 2)流域の自然環境

### (1)上流域の自然環境

鈴鹿川の上流域は、三重県と滋賀県の県境をなす鈴鹿山脈が連なり、その大半が鈴鹿国定公園に指定され、石水溪、小岐須溪谷、宮妻峡といった豊かな溪谷美や、鈴鹿山の鏡岩、筆捨山といった山岳景観に代表される特徴的な景観を形成している。

植生はスギ・ヒノキの人工林が大半を占めているが、標高 800m を越える御在所岳から仙ヶ岳、野登山付近はブナの自然林が広がり、野登山のブナ林は三重県の天然記念物にも指定されている。

また、このような山岳地帯には、国指定の天然記念物であるニホンカモシカが生息しているほか、三重県指定の天然記念物であるキリシマミドリシジミや、ムカシトンボ、ムカシヤンマ等の貴重な昆虫類が生息している。



筆捨山（亀山市）

奇岩怪石の多い山で、松、楓、つつじが繁茂している。昔、狩野法眼元信という画家がこの山を描こうとしたが、山の姿の変化が激しくて描けず筆を捨てたのでこの名がついたといわれている。



野登山のブナ林（亀山市）

【出典：石水溪パンフレット（亀山市）】

山頂付近にブナの原生林や樹齢数百年の大杉が林立し、深山の自然の魅力を肌で感じられ、市民をはじめたくさんの人々に親しまれている。標高 852m の野登山山頂付近には、ブナを中心とした落葉広葉樹の原生林が約 4 ha にわたって広がり、西日本の植生を伝える貴重な資料として三重県天然記念物に指定されている。（昭和 31 年 5 月 2 日）

### (2)中流域の自然環境

鈴鹿川の中流域は、鈴鹿山麓から発する扇状の台地や沖積平野が広がり、茶畑を中心とした畑地や水田として利用されるほか、アカマツの植林が分布している。

野登山南麓の斜面には坂本の棚田が広がり、平成 11 年に「日本の棚田百選」に選定されており、景勝地となっている。



中流域の茶畑（亀山）

古文書によると、伊勢茶の起源は飯盛山浄林寺（現在の四日市市水沢町一乗寺）の住職「玄庵」が、延喜年間（西暦 901～922 年）に空海直伝の製茶法を伝承し、この地域に茶樹を栽植したのが始まりと伝えられている。



坂本棚田

坂本の棚田は、平成11年7月に「日本の棚田百選」に選ばれた。この棚田が作られた歴史は定かではないが、この地に人が入った戦国時代に開墾されたものといわれており、法面が石積みの珍しい棚田である。現在は、面積約23ha、440枚の田を地元の人たちが一生懸命守っている。春には坂本棚田野上がりまつりが開催される。

### (3) 下流域の自然環境

鈴鹿川の下流域は沖積平野となり、水田や市街地が広がっている。

河口部には、干潟や砂浜海岸が見られ、特に鈴鹿川と鈴鹿川派川の間につながる吉崎海岸は、砂浜の少なくなった三重県の海岸において、北部の高松海岸とともに昔からの姿を持っている美しい砂浜の海岸が広がっている。



高岡山城跡公園から見た鈴鹿川

鈴鹿市の市街地や田園風景が見られ、下流域の景観を特徴づけている。



吉崎海岸（四日市市）

吉崎海岸は、北勢地方では高松海岸とともに海浜植生が残存する貴重な半自然砂浜海岸である。河口幅 400m の鈴鹿川とその上流 4.5 km 鈴鹿市一宮町付近で分岐し約 4 km の流路を有する派川に挟まれた三角州状海岸平野の地先長さ 2.5 km の差堆である。砂堆幅は数 10m から 100 m で、比高 5m ほどの堤防下に後浜、前浜さらに水深 6m ほどの堆積台である沖浜へ漸移する。後浜は海浜植生が豊かであり幅も広い。近時は車の進入を禁止して野鳥等の保護に努めている。

## 2 - 2 河川及びその周辺の自然環境

### 1) 河川の自然環境

鈴鹿川流域の流域区分は、前記したように地形、地質、植生、土地利用の特徴から大きく3つに区分される。河川の自然環境は、これに潮の干満の影響をうける河口部を加えた4区分に大別できる。

#### (1) 上流部の自然環境

上流部は急峻な鈴鹿山脈に渓谷を刻みながら流下し、支川の上流域に見られる石水渓や小岐須渓谷、宮妻峽などの豊かな渓谷美が景勝地となり、キャンプやハイキング、溪流釣りの場として利用されている。

このような環境のもと、清流を好むアマゴやヒダサンショウウオ、モリアオガエルなども生息・繁殖している。



小岐須渓谷（鮎止めの滝）

野登山、仙ヶ岳に囲まれた御幣川上流の約4 kmの渓谷。鮎止めの滝、屏風岩などの景勝地やキャンプ場、山の家があり、野外研修等にも利用されている。

#### (2) 中流部の自然環境

中流部は、砂礫河原、瀬や淵などを形成しながら流れ、水際にはツルヨシが生育するなど、自然豊かな水際環境が残されている。礫河床にはアカザ、オイカワ、ヨシノボリなどが生息・繁殖し、砂礫河原にはイカルチドリ、イソシギなど砂礫河原を好む鳥類などが生息・繁殖している。

また、支川安楽川の中流部では、国の天然記念物に指定されているネコギギの生息も報告されている。

また、高水敷にはところどころ河畔林が見られ、ヒヨドリなど、河畔林を利用する鳥類などが生息・繁殖している。



砂礫河原（亀山橋下流）



イカルチドリ



アカザ

### (3)下流部の自然環境

下流部は川幅が広がり、比較的ゆるやかな流れとなっており、オイカワやカワムツ、カワヨシノボリなどが多く生息している。

また、ところどころ砂州が発達し、水際にはツルヨシが繁茂している。このような環境を反映し、コアジサシやシロチドリなど、砂地に依存する鳥類が生息・繁殖しているほか、ツルヨシ等の草地にはカヤネズミやオオヨシキリが生息・繁殖している。

高水敷にはメダケ林やムクノキ・エノキ群落、ヤナギ林などからなる河畔林が点在しており、このような河畔林はムクドリやサギ類の休息地などとして利用されている。

さらに、鈴鹿川第一頭首工による湛水域が存在し、冬季にはカモ類の休息、採餌場となっている。一方、頭首工等の横断工作物により落差が存在し、魚類の遡上範囲が分断されている。



発達した砂州（<sup>しよの</sup>庄野橋上流）



鈴鹿川第二頭首工魚道の状況



サギ類のねぐら（鈴鹿川第一頭首工上流）

#### (4)河口部の自然環境

鈴鹿川及び鈴鹿川派川の河口部にはボラ、ピリンゴ、マハゼ等の汽水・海水魚が生息するほか、水際の塩沼地にはアイアシ、シオクグ等の塩沼植物やヨシ群落が分布し、オオヨシキリやアシハラガニ等の生育・繁殖場となっている。

また、河口付近には干潟が形成され、ゴカイ等の干潟特有の生物が生息・繁殖しているほか、冬季にはカモ類、春季や秋季にはシギ・チドリ類が多く飛来し、鳥類の休息場や渡りの中継地となっていることから、環境省により「日本の重要湿地 500」に選定されている。



鈴鹿川派川干潟の鳥類休息場



河口部の植生（アイアシ群落）

#### (5)内部川の自然環境

内部川は、頭首工が連続し、湛水域を形成している。河道内には砂礫河原が発達し、水際にはツルヨシが繁茂している。このような環境を反映し、砂礫河原を好むシロチドリやイカルチドリなどが生息・繁殖している。一方、外来種であるアレチウリの侵入・拡大も見られ、在来植生への影響が懸念される。



河原田用水堰の湛水域（内部川 2.6k 付近）



砂礫河原（内部川 3.6k 付近）

#### (6)安楽川の自然環境

安楽川は、砂礫河原が発達し、水際にはツルヨシが繁茂している。左右岸にはマダケ林からなる河畔林が連続しており、サギ類の休息地として利用されている。また、国内外来種であるギギが生息しており、在来種であるネコギギの生息・繁殖環境への影響が懸念される。



砂礫河原と河畔林（安楽川 1.0k 付近）

## 2) 動植物の生息状況

### (1) 鈴鹿川流域に生息・生育する生物

鈴鹿川の大臣管理区間には、河口部の干潟や塩性湿地、下流部～中流部にかけての砂礫河原や水際の草地、河畔林など、様々な環境が見られる。鈴鹿川ではこれらの環境に依存した様々な生物が生息・生育している。

#### 魚類

鈴鹿川では、全川的にオイカワ、カワヨシノボリが多く生息している。

河口部の感潮区間では、ピリンゴ、マハゼ、ボラ等の汽水・海水魚が多く確認されている。また、アユやカマキリ等の回遊魚は鈴鹿川第二頭首工より下流で確認されており、それより上流では確認個体数は少なくなっている。

中流部においては、カワムツやタモロコ、タカハヤなどの生息も確認されている。また、水の比較的きれいな場所に生息するアカザやスナヤツメが確認されている。



オイカワ



スナヤツメ

#### 底生動物類

河口では貝類や甲殻類、ゴカイ類が主体であるが、それより上流では水生昆虫が主体でカゲロウ目、トンボ目、トビケラ目、ハエ目、コウチュウ目が多く生息している。

代表的な出現種としては、河口部では汽水域に依存するゴカイ、ケフサイソガニ、アシハラガニなどが生息している。下流部～中流部の緩流部にはシロハラコカゲロウやキイロカワカゲロウ、モノアラガイ、早瀬にはヒゲナガカワトビケラ、早瀬～平瀬にはヨシノマダラカゲロウ、オオマダラカゲロウなどが生息している。

#### 植物

河口部では汽水域であることを反映して、塩沼植物群落のアイアシ群集や砂丘植物群落のコウボウムギ群集、ハマヒルガオ群落が分布し、ヨシ群落も見られる。また広い砂州に外来種のシナダレスズメガヤが広く群落を形成している。

下流部の高水敷は公園整備されているところが多くみられる。整備されていない高水敷にはメダケ群集やクズ群落、マダケ植林、ムクノキ-エノキ群集などが広がり、低水敷にはクズ群落の他、特定外来生物のアレチウリが広く群落を形成している。水際には

ツルヨシ群集が分布するほか、広い砂礫裸地が見られる。

中流部では、コゴメヤナギ群集、カワラヨモギ - カワラハハコ群落、ヒメムカシヨモギ - オオアレチノギク群落といった掃流の影響を受ける砂礫地特有の群集がみられ、中流部よりも河床勾配が高く流速が速いことを反映していると考えられる。

内部川は、高水敷にはセイタカアワダチソウ群落、クズ群落、カナムグラ群落、特定外来生物のアレチウリ群落などが広がっている。低水敷にはアレチウリ群落、カナムグラ群落、ツルヨシ群集が広がっている。また、2.8km より上流ではマダケ植林、ハチク植林、メダケ群集といった河畔林がみられるようになり、低水敷にはツルヨシ群集などが分布している。

鈴鹿川派川は、河口部は汽水域であることを反映して、塩沼植物群落のアイアシ群集やヨシ群落、シオクグ群落、砂丘植物群落のコウボウムギ群落、ハマヒルガオ群落、ハマゴウ群落が分布する。また海辺に特有なテリハノイバラ群落もみられる。

河畔にはメダケ群集が帯状に連続する他、カナムグラ群落、セイタカアワダチソウ群落、クズ群落などが広がっている。



ヨシ群落  
(鈴鹿川 0.7k 付近)



カワラヨモギ - カワラハハコ群落  
(鈴鹿川 21.4k 付近)

## 鳥類

全川で見ると、カワウ、サギ類、カモ類、セキレイ類、ホオジロ、スズメなどが多く生息している。

河口部では、河川内に低木は点在するがまとまった樹林はなく、カワウやサギ類、カモ類、カモメ類など水辺の陸鳥、ヨシに強く依存するオオジュリンやオオヨシキリ、草地に多いホオジロやヒバリ、スズメやムクドリなどの市街地に適応した鳥類が主に生息している。このほか、カンムリカイツブリ、スズガモ、ホオジロガモ、ミサゴ、ヒクイナ、ミヤコドリ、トウネン、ハウロクシギ、チュウシャクシギなど、海域から汽水域に生息する種が多く生息している。

下流部では、カワウ、サギ類、ホオジロ、スズメ、カワラヒワなどが多く生息している。また、広い砂地にはコアジサシやシロチドリなどが確認されている。

中流部には、イカルチドリ、イソシギ、セキレイ類、ヒヨドリ、ホオジロ、カワラヒ

ワなどが生息しており、礫地に生息するイカルチドリや、様々な樹林地に生息するヒヨドリが特徴的である。また、樹林に生息するクロツグミ、イカル、ニューナイスズメも確認されている。

内部川では、カルガモ、イカルチドリ、セグロセキレイ、ドバト、ホオジロ、スズメなどが生息し、様々な環境に生息する鳥類が確認されている。



イソシギ



スズガモ

#### 両生類・爬虫類・哺乳類

下流部の高茎草が広く見られる箇所では、草地環境への依存性が高いカヤネズミの巣が確認されている。淀みが見られる箇所では、トノサマガエルやウシガエルなどのカエル類が多く出現している他、シュレーゲルアオガエルも生息している。

中流部ではホンドジカの足跡が確認されたほか、河川上流部の開けた場所に生息するカジカガエルが生息している。

#### 陸上昆虫類

鈴鹿川に生息する陸上昆虫類は、河道内に見られるツルヨシ等の植生やヤナギ、エノキ・ムクノキ等からなる河畔林、砂礫河原といった環境など、様々な環境を反映した種が生息している。

下流部の草が広がっている箇所には、スズムシ、ハラオカメコオロギ、ヒメコオロギ、ショウリョウバッタなどのバッタ目、ウズラカメムシ、マルカメムシなどのカメムシ目、イチモンジセセリ、モンキチョウ、ウスオエダシャクなどのチョウ目、コウチュウ目のナナホシテントウ、ヨモギハムシなどの草地性の種が中心となっている。また、ヤナギ林には、コクワガタ、ヒラタクワガタ、シロテンハナムグリ、オオスズメバチなどの樹林性の昆虫類が生息している。

砂礫河原には、ミズギワコメツキ類、スナゴミムシダマシ類などの砂礫地に生息する種が生息し、水辺に依存するハグロトンボ、ゲンゴロウ類、ガムシ類なども比較的多く確認されている。

中流部では、エルモンヒラタカゲロウ、アオサナエ、トビケラ類などの清流性の昆虫類も生息している。

内部川では、主に草地と砂礫地が広がる環境であり、コモリグモ類、ハラオカメコオロギ、ヒメコオロギなどのバッタ類、ツノトンボ、ナナホシテントウ、ヨモギハムシなどの草地性昆虫類が占めている。また、砂礫地ではヒメサビキコリやスナゴミムシダマシ類がみられる。その他、左岸側に山林が隣接しているので、コクワガタ、オオスズメバチなどの樹林性の昆虫類も確認されている。

## (2) 鈴鹿川における貴重な種

鈴鹿川における貴重な種は、河川水辺の国勢調査における現地調査確認種をもとに以下の基準で選定した。

### 【「重要種」の選定に用いた文献】

- ・「文化財保護法」「文化財保護条例」における国、都道府県、市町村指定天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種および緊急指定種
- ・環境省編「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック」掲載種  
または、環境省編「レッドリスト」掲載種
- ・地方版レッドデータブック
  - 「三重県レッドリスト 2005」(2005:三重県環境森林部自然環境室)掲載種
  - 改訂・近畿地方の保護上重要な植物 - レッドデータブック近畿 2001 -  
(2001:レッドデータブック近畿研究会)掲載種
  - または、近畿地区鳥類レッドデータブック  
(2002:近畿鳥類レッドデータブック研究会)掲載種

既往の河川水辺の国勢調査により確認された種のうち、魚類 11 種、底生動物 15 種、植物 19 種、爬虫類 2 種、鳥類 66 種、陸上昆虫類 25 種が重要種として確認された。

鈴鹿川で確認された魚類の重要種一覧表

種名	指定区分	確認場所
スナヤツメ	環レ(VU)、新環レ(VU)、三重レ(VU)	鈴鹿川中流部
ウナギ	新環レ(DD)	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川
ゲンゴロウブナ	新環レ(NT)	鈴鹿川下流部
ホトケドジョウ	環レ(EN)、新環レ(EN)、三重レ(VU)	内部川、足見川
アカザ	環レ(VU)、新環レ(VU)、三重レ(VU)	鈴鹿川中流部
メダカ	環レ(VU)、新環レ(VU)、三重レ(NT)	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川、椋川、芥川、足見川
カマキリ	新環レ(VU)	鈴鹿川下流部
ウツセミカジカ	環レ(VU)、新環レ(EN)	鈴鹿川下流部
ヒモハゼ	新環レ(NT)	鈴鹿川下流部
エドハゼ	環レ(EN)、新環レ(VU)	鈴鹿川下流部
アシシロハゼ	三重レ(EN)	鈴鹿川下流部

環レ…環境省編「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック(汽水・淡水魚類; 2003)」掲載種

EN…絶滅危惧 B類 VU…絶滅危惧 類

新環レ…環境省新レッドリスト(2007)

EN…絶滅危惧 B類、VU…絶滅危惧 類、NT…準絶滅危惧、DD…情報不足

三重レ…「三重県レッドリスト2005」掲載種

EN…絶滅危惧 B類 VU…絶滅危惧 類

NT…準絶滅危惧種

出典：平成 5 年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系魚類調査報告書

平成 6 年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系魚類調査報告書

平成 10 年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系魚類調査報告書

平成 15 年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系魚類調査報告書

鈴鹿川で確認された底生動物の重要種一覧表

種名	指定区分	確認場所
マルタニシ	環レ(NT)、新環レ(NT)、三重レ(NT)	鈴鹿川下流部
オオタニシ	新環レ(NT)	鈴鹿川下流部
ムシヤドカリカワザンショウガイ	新環レ(NT)	鈴鹿川下流部
ヨシダカワザンショウガイ	新環レ(VU)	鈴鹿川下流部
オカミミガイ	三重レ(NT)	鈴鹿川下流部
コシダカヒメモノアラガイ	環レ(DD)	鈴鹿川下流部
モノアラガイ	環レ(NT)、新環レ(NT)、三重レ(NT)	鈴鹿川中流部、内部川
ナガオカモノアラガイ	環レ(NT)、新環レ(NT)、三重レ(NT)	鈴鹿川下流部
ヤマトシジミ	新環レ(NT)	鈴鹿川下流部
アサリ	新環レ(NT)	鈴鹿川下流部
ハマガニ	三重レ(DD)	鈴鹿川下流部
アリアケモドキ	三重レ(VU)	鈴鹿川下流部
キボシケシゲンゴロウ	三重レ(NT)	鈴鹿川中流部
ヒメシマチビゲンゴロウ	三重レ(DD)	鈴鹿川中流部
ゴマダラチビゲンゴロウ	三重レ(DD)	内部川

環レ…環境省編「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック(陸・淡水産貝類; 2005、クモ形類・甲殻類等; 2006)」掲載種

VU…絶滅危惧 類 NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

新環レ…環境省新レッドリスト(2006; 甲殻類等、2007; 陸・淡水産貝類) 掲載種

VU…絶滅危惧 類 NT…準絶滅危惧

三重レ…「三重県レッドリスト2005」掲載種

VU…絶滅危惧 類 NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

出典：平成 5 年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系底生動物調査報告書

平成 10 年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系底生動物調査報告書

平成 15 年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系底生動物調査報告書

鈴鹿川で確認された植物の重要種一覧表

種名	指定区分	確認場所
ハルニレ	三重レ(EN)、近レ	鈴鹿川派川
ノダイオウ	環レ(VU)、新環レ(NT)、近レ	内部川
ハマアカザ	三重レ(EN)、近レ	鈴鹿川派川
ハママツナ	三重レ(NT)、近レ	鈴鹿川派川
ユキヤナギ	三重レ(DD)、近レ	鈴鹿川中流部
ハマボウ	三重レ(VU)、近レ	鈴鹿川派川
ゴギゾル	三重レ(EN)	鈴鹿川下流部
ハマボウフウ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川派川
カラタチバナ	三重レ(NT)	鈴鹿川中流部
ハマサジ	環レ(VU)、新環レ(NT)、三重レ(NT)、近レ	鈴鹿川派川
ミソコウジュ	環レ(NT)、新環レ(NT)、三重レ(VU)、近レ	鈴鹿川下流部、内部川
シソクサ	近レ	鈴鹿川下流部
カワヂシャ	環レ(NT)、新環レ(NT)、三重レ(DD)、近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川
カワラハハコ	三重レ(VU)、近レ	鈴鹿川中流部
フクド	新環レ(NT)、三重レ(VU)、近レ	鈴鹿川派川
ホシクサ	近レ	鈴鹿川中流部
ヤマラッキョウ	自公	内部川
アイアシ	三重レ(VU)、近レ	鈴鹿川派川
シオクグ	近レ	鈴鹿川派川

環レ…環境省「日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック(植物; 2000)」掲載種

VU…絶滅危惧 類、NT…準絶滅危惧

新環レ…環境省新レッドリスト(2007)掲載種

NT…準絶滅危惧

三重レ…「三重県レッドリスト2005」掲載種

EN…絶滅危惧 B類 VU…絶滅危惧 類

NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

近レ…改訂・近畿地方の保護上重要な植物 - レッドデータブック近畿2001 - 掲載種

自公…「自然公園法」による指定植物

出典:平成4年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系植物調査報告書

平成8年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系植物調査報告書

平成13年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系植物調査報告書

鈴鹿川で確認された爬虫類の重要種一覧表

種名	指定区分	確認場所
スッポン	環レ(DD)、新環レ(DD)、三重レ(DD)	鈴鹿川中流部
イシガメ	新環レ(DD)	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川

環レ…環境省(庁)編「日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック(爬虫類・両生類; 2000)」掲載種

DD…情報不足

出典:平成16年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系両性類・爬虫類・哺乳類調査報告書

新環レ…環境省新レッドリスト(2007)

DD…情報不足

三重レ…「三重県レッドリスト2005」掲載種

DD…情報不足

鈴鹿川で確認された鳥類の重要種一覧表

種名	指定区分	確認場所
カンムリカイツブリ	近レ	鈴鹿川下流部
カワウ	緑1	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川
ササゴイ	三重レ(VU繁殖)、近レ	鈴鹿川下流部
チュウサギ	環レ(NT)、新環レ(NT)、三重レ(VU繁殖)、近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川、安楽川
マガモ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川、鈴鹿川派川
トモエガモ	環レ(VU)、新環レ(VU)、三重レ(EN越冬)、近レ	鈴鹿川派川
ヨシガモ	近レ	鈴鹿川下流部
ピロードキンクロ	近レ	鈴鹿川下流部
ホオジロガモ	近レ	鈴鹿川下流部
ウミアイサ	近レ	鈴鹿川下流部
ミサゴ	環レ(NT)、新環レ(NT)、三重レ(EN繁殖・VU越冬)、近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川派川
ハチクマ	環レ(NT)、新環レ(NT)、三重レ(EN繁殖)、近レ	鈴鹿川下流部
オオタカ	保存、環レ(VU)、新環レ(NT)、三重レ(VU留鳥)、近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部
ハイタカ	環レ(NT)、新環レ(NT)、三重レ(NT越冬)、近レ	鈴鹿川下流部
サシバ	三重レ(EN繁殖)、近レ	鈴鹿川中流部
ハヤブサ	保存、環レ(VU)、新環レ(VU)、三重レ(CR繁殖・EN越冬)、近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部
チョウゲンボウ	三重レ(EN越冬)、近レ	鈴鹿川下流部
クイナ	三重レ(NT越冬)、近レ	鈴鹿川派川
ヒクイナ	三重レ(VU繁殖)、近レ	鈴鹿川下流部
コチドリ	三重レ(EN繁殖)、近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部
イカルチドリ	三重レ(VU繁殖・NT越冬)、近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川
シロチドリ	三重レ(EN繁殖・NT越冬)、近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川派川
メダイチドリ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川派川
ムナグロ	近レ	鈴鹿川派川
ダイゼン	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川派川
タゲリ	三重レ(VU)、近レ	鈴鹿川下流部
キョウジョシギ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川派川
トウネン	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川派川
オジロトウネン	三重レ(DD越冬)、近レ	鈴鹿川下流部
ウズラシギ	近レ	鈴鹿川派川
ハマシギ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川派川
ミユビシギ	三重レ(NT越冬)、近レ	鈴鹿川派川
アオアシシギ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、鈴鹿川派川
クサシギ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川
キアシシギ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、鈴鹿川派川
イソシギ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川、鈴鹿川派川
ソリハシシギ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川派川
オオソリハシシギ	近レ	鈴鹿川下流部
ホウロクシギ	環レ(VU)、新環レ(VU)、三重レ(NT通過)、近レ	鈴鹿川下流部
チュウシャクシギ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川派川
タシギ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部
オオセグロカモメ	近レ	鈴鹿川下流部
コアジサシ	環レ(VU)、新環レ(VU)、三重レ(EN繁殖)、近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川派川
アオバト	近レ	鈴鹿川下流部
ホトトギス	近レ	鈴鹿川中流部
フクロウ	近レ	鈴鹿川中流部
ヤマセミ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部
カワセミ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川
アリスイ	近レ	鈴鹿川下流部

種名	指定区分	確認場所
ハクセキレイ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川
ピンズイ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部
サンショウクイ	環レ(VU)、新環レ(VU)、三重レ(VU通過)、近レ	鈴鹿川中流部
ノビタキ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部
イソヒヨドリ	近レ	鈴鹿川下流部
クロツグミ	三重レ(NT繁殖)、近レ	鈴鹿川中流部
アカハラ	近レ	鈴鹿川中流部
オオヨシキリ	三重レ(NT繁殖)、近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川
セッカ	近レ	鈴鹿川下流部、内部川
コサメビタキ	三重レ(DD繁殖)、近レ	鈴鹿川中流部
ホオアカ	近レ	鈴鹿川下流部
ミヤマホオジロ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川
ノジコ	環レ(NT)、新環レ(NT)、三重レ(DD越冬)	鈴鹿川中流部
アオジ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川
ベニマシコ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部
シメ	近レ	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部
コムクドリ	近レ	鈴鹿川中流部

保存・・・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種および緊急指定種

環レ・・・環境省編「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック(鳥類; 2002)」掲載種

VU・・・絶滅危惧 類 NT・・・準絶滅危惧種

新環レ・・・環境省新レッドリスト(2007)

VU・・・絶滅危惧 類 NT・・・準絶滅危惧種

三重レ・・・「三重県レッドリスト2005」掲載種

EN・・・絶滅危惧 B 類 CR+EN・・・絶滅危惧 類 VU・・・絶滅危惧 類 NT・・・準絶滅危惧種

DD・・・情報不足

近レ・・・近畿地区鳥類レッドデータブック掲載種

出典：平成7年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系鳥類調査報告書

平成8年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系鳥類調査報告書

平成12年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系鳥類調査報告書

平成17年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系鳥類調査報告書

#### 鈴鹿川で確認された陸上昆虫類等の重要種一覧表

種名	指定区分	確認場所
オニグモ	三重レ(NT)	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部
コガネグモ	三重レ(NT)	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川
マルゴミグモ	三重レ(DD)	鈴鹿川下流部
ドヨウオニグモ	三重レ(NT)	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川
カワベコモリグモ	三重レ(DD)	鈴鹿川下流部
イサゴコモリグモ	三重レ(VU)	鈴鹿川中流部
オビジガバチグモ	三重レ(DD)	鈴鹿川下流部
クチナガコオロギ	三重レ(NT)	鈴鹿川下流部
コオイムシ	三重レ(NT)	鈴鹿川中流部
トラフムシヒキ	三重レ(NT)	鈴鹿川中流部
アオメアブ	三重レ(DD)	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川
オオイシアブ	三重レ(DD)	内部川

種名	指定区分	確認場所
スナハラゴミムシ	新環レ(NT)	鈴鹿川下流部
キベリマルクビゴミムシ	三重レ(EX)、新環レ(NT)	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川
オオトックリゴミムシ	三重レ(EN)	鈴鹿川下流部
オオヒョウタンゴミムシ	環レ(NT)、新環レ(NT)、三重レ(VU)	鈴鹿川下流部
ゴマダラチビゲンゴロウ	三重レ(DD)	鈴鹿川下流部
ツマキレオナガミズスマシ	新環レ(NT)	鈴鹿川中流部
ヤマトモンシテムシ	三重レ(VU)、新環レ(NT)	鈴鹿川下流部、鈴鹿川中流部、内部川
マルエンマコガネ	三重レ(EN)	鈴鹿川下流部
シラホシハナムグリ	三重レ(VU)	鈴鹿川下流部
クロキオビジョウカイモドキ	三重レ(VU)	鈴鹿川中流部
クロスジイッカク	三重レ(NT)	鈴鹿川下流部
モンスズメバチ	三重レ(VU)	内部川
キアシハナダカバチモドキ	環レ(DD)	鈴鹿川下流部

環レ…環境省編「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック (昆虫類 ; 2006)」掲載種

VU…絶滅危惧 類 NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

新環レ…環境省新レッドリスト (2007) 掲載種

NT…準絶滅危惧

三重レ…「三重県レッドリスト 2005」掲載種

EX…絶滅 EN…絶滅危惧 B類 VU…絶滅危惧 類

NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

出典：平成 5 年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系陸上昆虫類調査報告書

平成 9 年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系陸上昆虫類調査報告書

平成 14 年度 河川水辺の国勢調査 鈴鹿川水系陸上昆虫類調査報告書

### 3) 鈴鹿川を特徴づける場所

地域の有識者からなる「鈴鹿川環境特性懇談会」<sup>1)</sup>において、鈴鹿川を特徴づける場所として以下の26箇所が抽出されている。

表2-1 鈴鹿川らしさ一覧表

No.	らしさのタイトル	具体的な場所	
1	河口の開けた景観	0～1.0km付近	磯津橋・鈴鹿本線の河口
2	豊かな植生が楽しめる小倉橋付近	2.0～2.5km付近	小倉橋付近
3	グラウンド付近のウグイの産卵場	3.～4.0km付近	内部川合流点～本郷橋
4	鈴鹿の歴史を偲ぶ風景	5.0km付近	鈴鹿川本川と派川の分派点
5	砂州の広がる高岡橋付近	6.5km付近	高岡橋付近
6	天然アユが遡上してくる木田橋付近	8.5km付近	木田橋付近
7	広い水面と河畔林のある第二頭首工付近	9.7km付近	第二頭首工付近
8	自然の中の親水空間	11.2～13.1km付近	定五郎橋～庄野橋
9	バードウォッチングの場	13.1～14.1km付近	庄野橋～汲川原橋
10	水害の歴史を伝える女人堤防の碑	14.4km付近	女人堤防
11	砂州と早瀬が見られる安楽川合流点付近	15.0km付近	安楽川との合流点
12	亀山市民の出会いの場	21.0～22.0km付近	亀山橋付近
13	情緒ある風情を創出している神辺橋付近	25.5km付近	神辺橋付近
14	昔ながらの自然が残されている加太川	加太川 1.0～5.0km付近	加太金場～加太市場
15	鈴鹿川の観光名所	アマタノ川 1.5～2.5km付近	名阪森林パーク
16	天然アマゴの生息する川	中津川全域	中津川
17	旧東海道脇に残された豊かな自然	34.0～38.0km付近	沓掛～坂下地先(鈴鹿川本川)
18	派川に残された貴重な干潟	鈴鹿川派川 0～1.0km付近	鈴鹿川派川の河口
19	河畔林と中州のある風景	鈴鹿川派川 1.0～2.0km付近	新五味塚橋～五味塚橋
20	内部川探検隊	内部川 4.0km付近	内部川・内部小前
21	四日市市のキャンプ村・宮妻峡	内部川 19.0km付近	宮妻峡
22	橋のたもとに広がる身近な親水空間	安楽川 0～3.5km付近	本線との合流点～御幣川合流点付近
23	小岐須溪谷・屏風岩	御幣川 9.2km付近より上流	小岐須溪谷
24	安楽川の曲流(アメンダー)	安楽川 9.0～10.2km付近	安楽川安楽
25	鈴鹿の山々に囲まれた溪谷美・石水溪	安楽川 15.5km付近	石水溪
26	鈴鹿川沿いに発達した文化伝播の道(古代・旧東海道)	-	-

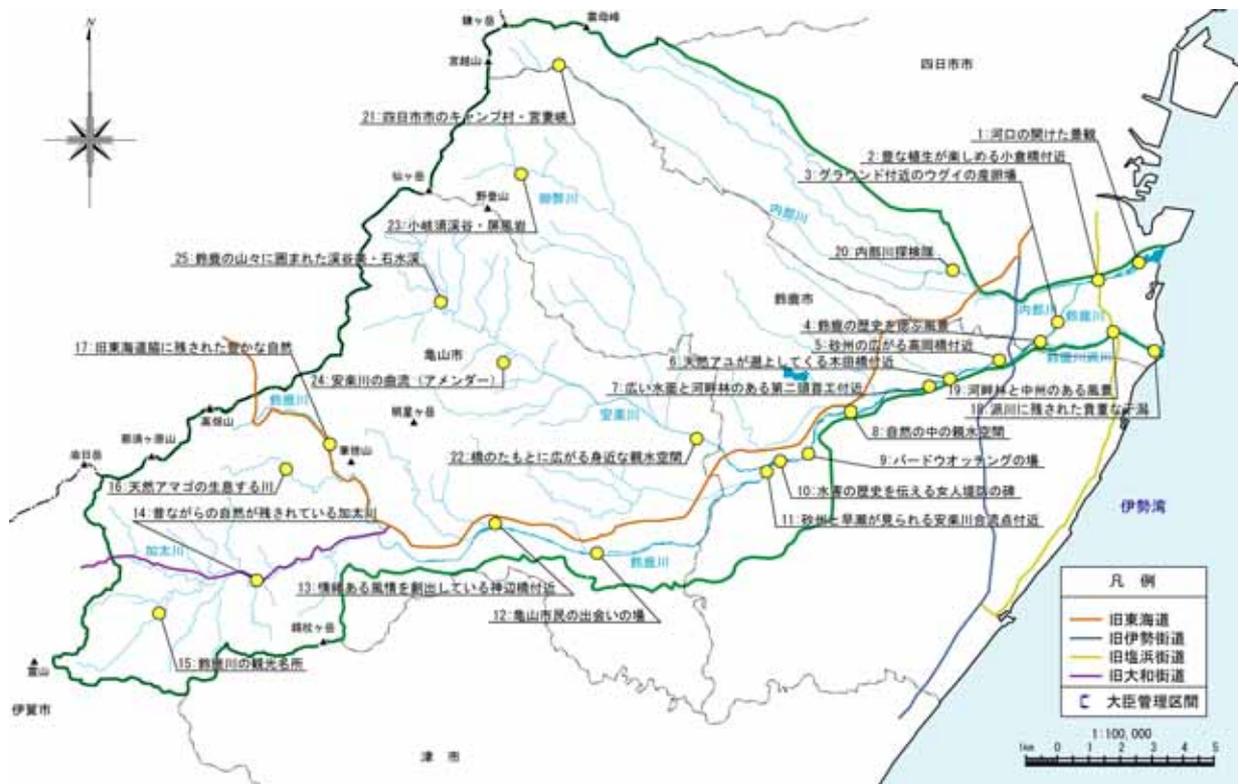


図 2 - 2 鈴鹿川らしさ位置図

）鈴鹿川環境特性懇談会：平成 10 年～平成 11 年にかけて、鈴鹿川の周辺環境も含めた環境特性（生態系、景観、親水、歴史、文化等）の現状を再認識するとともに、鈴鹿川の河川特性（鈴鹿川らしさ）を抽出・分析し、望ましい河川環境を保全・創出していくため、鈴鹿川と深い関わりをもつ各分野の方々から様々な意見や情報を得るために開催された。

## 2 - 3 特徴的な河川景観や文化財等

鈴鹿川流域は、上流域が鈴鹿国定公園に指定されるほか、河口部には自然の砂浜海岸が広がるなど、優れた自然景観が点在している。

上流域では石水溪や小岐須溪谷などの溪谷美が特徴的であり、多くの人々が訪れる観光地にもなっている。中流域に入ると、水田とともに緩やかな丘陵地となり、茶園やサツキ等の花木を生産する畑が広がり、田園風景が広がっている。下流域は従来、水田として利用されてきたが、近年では都市化が進んでおり、田園風景と都市景観が調和した景観を形成している。河口部には干潟が広がるとともに、自然の砂浜海岸が残され、特徴的な景観を形成している。

流域内には古来より近江・大和方面への交通路となる東海道や大和街道が通り、宿場町が発達するなど、交通の要衝となっており、文化や物資・情報が交流し合うことから多くの文化財が存在している。このうち国及び県指定の史跡、名勝、天然記念物は 21 件（うち、国指定 5 件、県指定 16 件）が存在する（平成 18 年度現在）。

表 2 - 2 鈴鹿川流域の史跡、名勝、天然記念物指定一覧

No.	名称	指定区分	指定年月日	所在地
	伊勢国分寺跡	国 史跡	1922(T11)10.12	鈴鹿市国分町
	王塚古墳	国 史跡	1970(S45)5.11	鈴鹿市国府町
	伊勢国府跡	国 史跡	2002(H14)3.19	鈴鹿市広瀬町
	石薬師の一里塚	県 史跡	1937(T12)8.27	鈴鹿市上野町
	白鳥塚古墳	県 史跡	1937(S12)11.10	鈴鹿市石薬師町
	石薬師の蒲ザクラ	県 天然記念物	1939(S14)8.10	鈴鹿市上野町
	西の城戸のヒイラギ	県 天然記念物	1943(S18)7.9	鈴鹿市国府町
	入道岳イヌツゲ及びアセビ群落	県 天然記念物	1962(S37)2.14	鈴鹿市小岐須町
	小岐須の屏風岩	県 天然記念物	1965(S40)12.9	鈴鹿市小岐須町
	川俣神社のスダジイ	県 天然記念物	1969(S44)3.28	鈴鹿市庄野町
	アイナシ	県 天然記念物	1972(S47)4.1	鈴鹿市国府町
	石大神	県 天然記念物	1996(H8)3.7	鈴鹿市小社町
	野村一里塚	国 史跡	1934(S9)1.22	亀山市野村町
	正法寺山荘跡	国 史跡	1981(S56)1.24	亀山市関町鷺山
	旧亀山城多聞櫓	県 史跡	1953(S28)5.7	亀山市本丸町
	峯城跡	県 史跡	1969(S44)3.28	亀山市川崎町
	鹿伏兎城跡	県 史跡	1981(S56)3.30	亀山市加太市場
	東の追分・西の追分	県 史跡	1982(S57)4.27	亀山市関町木崎・新所
	鈴鹿山の鏡岩	県 天然記念物	1936(S11)1.22	亀山市関町坂下
	宗英寺のイチョウ	県 天然記念物	1937(S12)7.12	亀山市南野町
②	野登山のブナ林	県 天然記念物	1956(S31)5.2	亀山市安坂山町

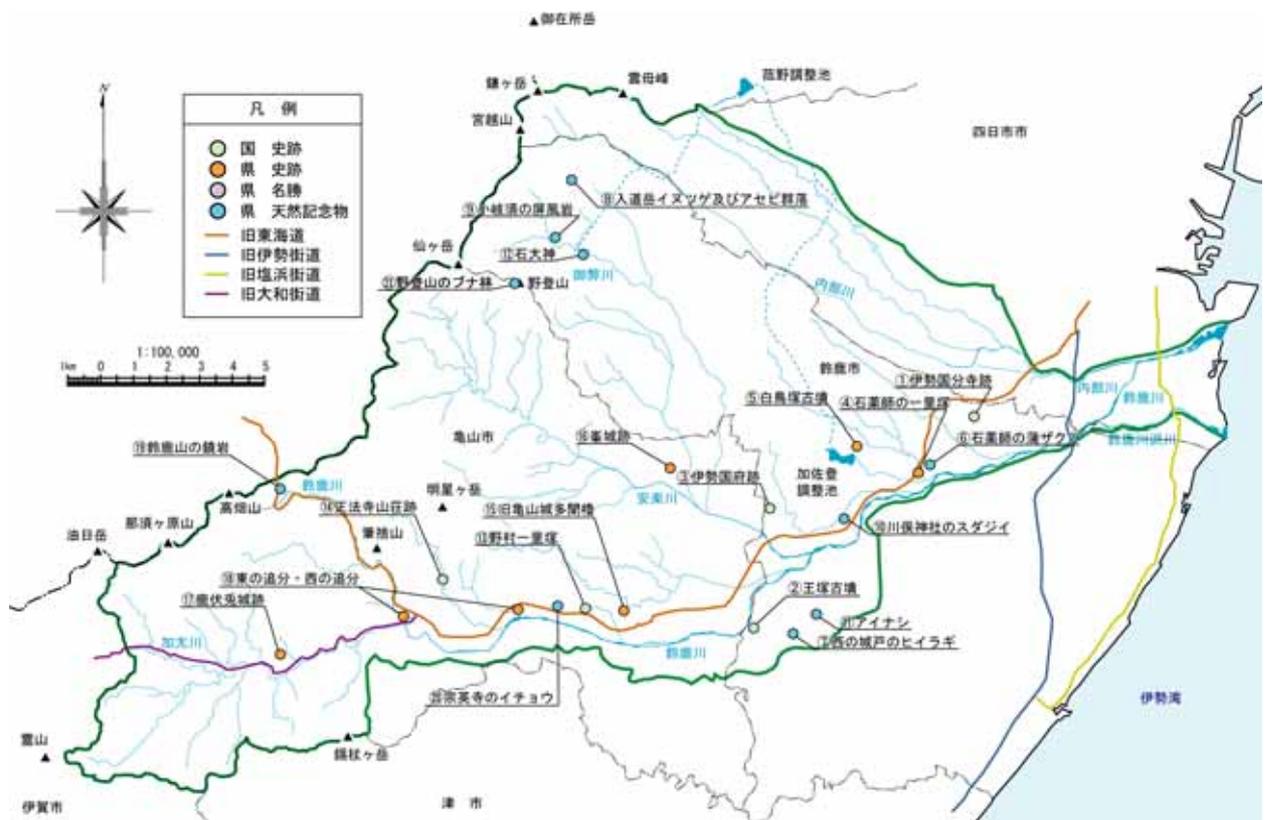


図 2 - 3 鈴鹿川流域の史跡、名勝、天然記念物位置図

[ 特徴的な河川景観 ]

1：小岐須溪谷の屏風岩

御幣川の一溪流にあり、秩父古生層の石灰岩を浸食してできたもので、溪流の両岸には、約 10 メートルの白色糖状の石灰岩からなる垂直の岸壁がせまり、すばらしい景観となっている。この附近は、夏はキャンプ、春秋は、山登り、ハイキングに適しており、市民にいきいひとときを与えてくれるところである。屏風岩は昭和 40 年 12 月に三重県天然記念物の指定を受けている。



屏風岩  
【出典：鈴鹿市勢要覧 95】

## 2：宮妻峽

入道ヶ岳<sup>にゅうどうがたけ</sup>と雲母峰<sup>きららみね</sup>に抱かれた内部川上流の渓谷にあり、目前には鈴鹿アルプスの槍と呼ばれ、登山者の憧憬の的となっている鎌ヶ岳の鋭鋒がそびえたっている。ここには市営のヒュッテ、バンガロー、テント村等の観光施設が整い、夏はキャンプ、春秋はピクニック、ハイキングに人々を集めている。



宮妻峽【出典：四日市観光協会 HP】

## 3：石水溪

鈴鹿川の支流安楽川の源流あたりにある渓谷。四季折々の自然が楽しめ、キャンプ村としても整備されており、夏季のレクリエーション地区としても利用されている。



石水溪  
【出典：石水溪パンフレット(亀山市)】

## 4：不動明王と不動滝

仙ヶ岳の中腹に巨大な不動滝があり、水量の多い日は遠く 15 kmをはなれた亀山市外からも眺望され、そして不動滝の上部の岩壁には不動明王の巨像が刻まれている。



不動滝

## 5：大岡寺 躰

東海道一の長い躰と言われる。江戸時代は松並木だったが、明治になり、枯れ松の跡に桜が植えられ、現在は桜並木となっている。松尾芭蕉<sup>まつおぼしやう</sup>は長い躰を旅して「から風の大岡寺繩手ふき通し、連れもちからもみな坐頭なり」と詠んだ。



大岡寺躰の桜  
【出典：亀山市観光協会 HP】

## 2 - 4 河川にまつわる歴史・文化

鈴鹿川流域は、上流は亀山東方の八野の段丘から下流は高岡山に至る丘陵の上に、さらに神戸東方の沖積平野の上箕田遺跡など、海岸線近くまで弥生式遺跡が分布しており、古来より人々が定住していた。

3～4世紀の大和朝の国家統一期に入ると、水田はますます拡大され、下流の平野部のみならず、沿岸の氾濫により樹枝状に入り込む浸食谷にも水田が開拓された。この生産力と、それに養われる人口とを土台として発生した豪族らは、大和朝の影響を受けて、主として河川に臨む段丘、もしくは台地の縁辺に多くの墳墓を営造したことが推定され、河川と古墳の関係を如実に物語っている。

また、日本武尊が東征からの帰路途中、能褒野で亡くなったという記紀の記述から、能褒野陵は日本武尊の墓であるとされている。

「鈴鹿川、八十瀬渡りて誰ゆゑか、夜越に越えむ妻もあらなくに」と万葉集にも詠われているように、鈴鹿川は数多くの瀬を形成する砂河川である。上流部は山腹の荒廃が著しく、江戸時代の明和8年7月22日(1771年)～享和2年6月27日(1802年)間に多く風水害があったと記録が残るように、土砂流出が多く河道も安定しないことから下流部では洪水による氾濫を繰り返している。このため、人々は上流部の崩壊地に石堤を設けるなど現在でいう砂防工事を、下流部では築堤工事を行っている。この歴史を物語るものとして、この地域には女人堤防なる話が伝えられている。なお、鈴鹿川の河道は、現在の地形から判断すると、かつては庄野～甲斐あたりから神戸台地沿いに東に流れ、現在の金沢川、新田川、二本木川等に分派しながら流下していったことが伺われる。

鈴鹿川の名は、大海人王子(後の天武天皇)が東国への旅の途中、洪水に難渋しているところに、駒路鈴をつけた鹿が現れ、その背に乗って川を渡ったという伝説から来たとされる。



- ・ 関宿の町並み

東海道伊勢別街道と伊賀街道<sup>いが</sup>に分岐する交通の要地として、現在の関町の町内を中心に早くから村落の発生をみた。旧東海道の宿場として、現在でも当時の面影をよく残している。



関宿の街並み

- ・ 東の追分、西の追分

本川左岸段丘上に位置し、街道の分岐点であった。東は伊勢別街道との分岐点、西は大和に向かう目印となっている。



### 定五郎橋

鈴鹿市改築甲斐町には、かつて渡しがあり、石薬師と庄野の町から近いことから、人の往来が盛んであった。しかし、橋も舟もなく、人々は歩いて川の中を渡っていた。前川定五郎は、川を安全に渡れるよう、橋を架けることに尽力し、3回の架け替えにより、明治11年（1908年）にようやく本格的な橋が完成した。この橋は定五郎の功績をたたえて「定五郎橋」と名付けられた。

### 女人堤防

かつて庄野付近の堤防がよく決壊したが、その頃は右岸側が神戸城下であったため、左岸堤の強化が許されなかった。禁じられた築堤を女人の手でひそかに敢行し村を水害から守った功績を讃え名づけられた。

### お諏訪おどり

18世紀前半に雨乞いの「お礼おどり」があったことが記録上確認でき、これが現在の「お諏訪おどり」と何らかの形で関係があったと考えられている。踊りは頭に花笠を被り、胸に締め太鼓をつけ手にバチをもって、もとは2人、現在は6人の踊り子が巡回しながら円を描いて踊る。周りには笛とほら貝及び唄い手がつく。現在では7月31日の夕方から足見田神社で水まつりの一部として行われている。



女人堤防の碑



お諏訪おどり

【出典：四日市市 HP】

## 2) 鈴鹿川にまつわる伝統、伝説

### 竜ヶ池

寛文5年(1665)、伊船村の大庄屋真弓長左衛門治広氏が、年々干ばつに苦しむ農民の生活を救うため造ったため池である。長左衛門は私財を投げうって、東奔西走工事完成のため努力し、1日も休むことなく人夫を督励したが、工事半ばに出水により再度にわたって崩れてしまったので、あまりのことに占ってもらった所、水神の祟りであるから人柱をたてねばならぬと云われた。丁度その頃、どこからか来た竜と云う女の人がある百姓家に奉公して行って工事に来ていた主人に弁当を持って来たのを見た人達が、彼女に一同の犠牲になってほしいと強く頼み、彼女はこれに同意したのでついに生きながら堤の下に埋められ人柱となった。このことがあってから後は、どの様な洪水にも崩れず完成したので竜ヶ池と名づけた。その後、この池に生息する魚は背中に瘻があったので、これは彼女が弁当を背負った姿であろうと伝えられている。



竜ヶ池

### 八百比尼塚

国府町の一部には、生れた赤子を橋の下に捨てる慣わしが残っている。これは八百姫塚の伝説に関係があり、昔、丹後の国に生れた少女が、何百年たっても年をとらず、尼となって伊勢神宮に参詣の帰途、この地に来て没した。

年八百八才あるいは八百八十才とも伝えられている。村民たちはこの霊を村の一隅に祭って、毎年四月八日に、八百姫明社の祭りをを行う。現在八百姫塚の方は、手入れする人もいないらしく、うっそうと茂った雑木の間なたまご型の石が三基、わずかにその位置を示している。裏の崖下には小さな川があり、天の橋(尼の橋)とよばれる三メートル程の橋が下流に見える、この橋がいわゆる捨子の橋と云う、昔は非常に盛んで、子供が生れると必ず捨子をやったといわれる。

## 2 - 5 河川環境に関わる地域の活動

鈴鹿川流域に関連した活動として、次の活動が代表として挙げられる。

「水辺づくりの会 鈴鹿川のうお座」(平成 14 年 11 月発足)では、井尻頭首工の魚道改築や、流域の川魚文化に関する調査、ため池等の外来魚(ブラックバス、ブルーギル)の駆除、水系での魚の生態系調査など、鈴鹿川の豊かな河川環境の保全及び再生・創造をめざして独自活動や地域、行政機関への働きかけなど積極的な活動を行っている。

「市民情報ネットワークすずかのぶどう」(平成 12 年 4 月 1 日発足)は、鈴鹿地域の非営利な市民活動の情報ネットワークの構築、運営を行い、団体及び個人の市民活動環境を整備し、地域の発展に寄与することを目的として活動している。活動の中では、やすらぎくんネットと称して、鈴鹿川流域の環境展など、三重県議会議員立法の条例をもとに平成 12 年 6 月 12 日設立、平成 18 年 3 月 2 日をもって終了した「鈴鹿・亀山生活創造圏ビジョン推進会議」(やすらぎくん)の理念を引き継いだ活動も行っている。

## 2 - 6 自然公園等の指定状況

鈴鹿川の上流域は鈴鹿山脈が連なり、豊かな山岳景観や溪流環境を有することから、鈴鹿国定公園に指定されている。流域内では、内部川上流の宮妻峡・御幣川上流の小岐須溪谷・安楽川上流の石水溪等に、溪谷美を背景にキャンプ場の施設が整備され、四季を通じて行楽の賑わいを見せている。

また、流域内には5箇所が鳥獣保護区に指定されている。

表 2 - 3 鈴鹿川流域自然公園等の指定状況

種別	公園名	指定年月日	関係市町	公園面積 (ha)	公園の特色
国定公園	鈴 鹿	昭和43年7月22日	四日市市、鈴鹿市、亀山市 いなべ市、菟野町、伊賀市	12,708	山岳景観、ニホンカモシカ、 自然林溪谷、湯の山温泉、 キリシマミドリシジミ

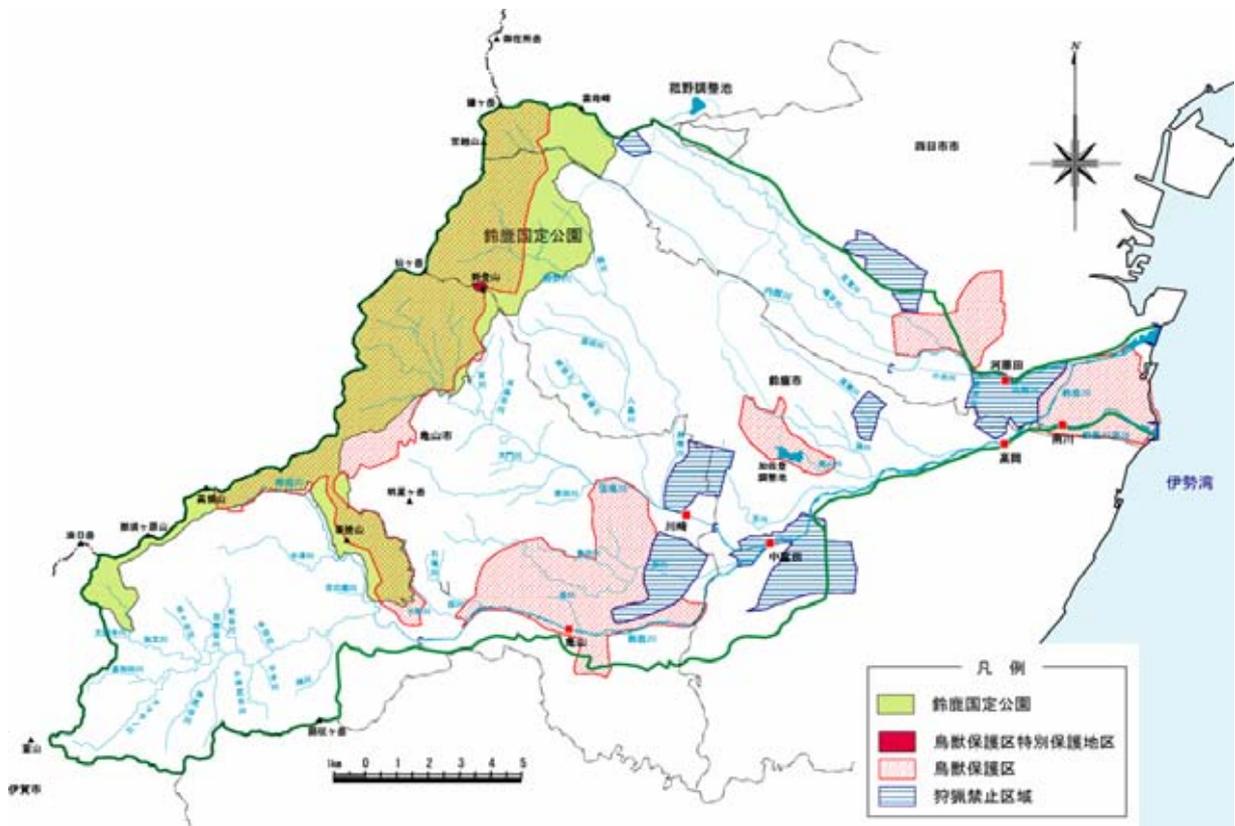


図 2 - 5 自然公園等位置図